

令和 7 年 度
決 算 状 況 に つ い て

岡 崎 市

1 一般会計

財政の健全化を推進し、持続的な歩みを支える

【収支】純剰余金（実質収支）は 65 億円

歳入決算額は約 1,677 億円で前年度対比約 99 億円の増(106.3%)、歳出決算額は約 1,578 億円で前年度対比約 92 億円の増(106.2%)となった。これにより、翌年度へ繰り越した事業の充当財源を控除した1年間(1年度)の収支に当たる「純剰余金(実質収支)」は、**64億 9,799万円**となった。前年度の実質収支との差額である「単年度収支」は 3,866 万円の黒字となった。また、「単年度収支」から財政調整基金の積立て・取崩し額を差し引いた「実質単年度収支」は **20億 7,903万円の赤字**となったが、令和6年度決算剰余金の財政調整基金への積立て(35 億円)を考慮した場合の実質単年度収支は **14億 2,097万円の黒字**となった。

【貯金】財政調整基金残高は回復基調

景気の動向に左右されずに、将来にわたって安定的な行政サービスを提供するための蓄えである財政調整基金残高は、令和7年度末では前年度末残高から 14 億円の増となる **104億 6,790万円**となった。目安としている 100 億円以上の残高を確保したものの、令和5年度以前の水準と比較すると低い水準となっている。健全財政を未来へつなげていくために、今後も基金残高を注視する必要がある。

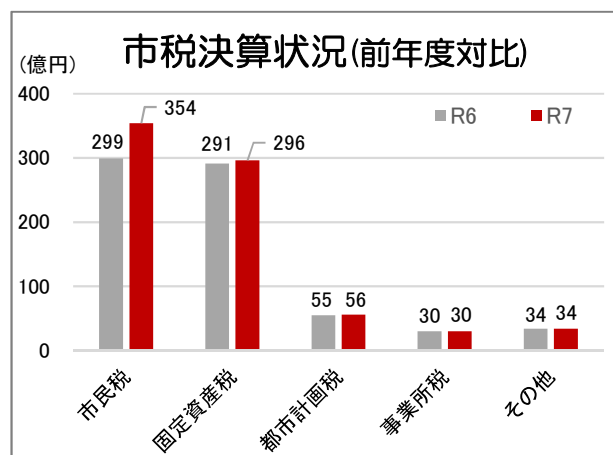
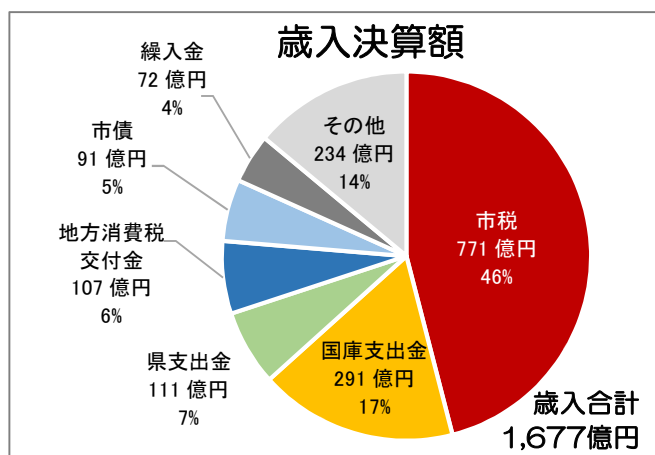
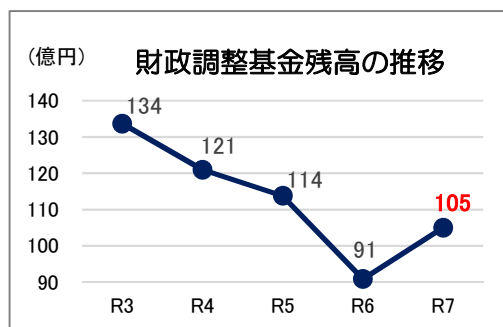
【借金】市債残高は 27 億円の増

借金に当たる市債残高は、前年度と比較し 27 億円の増となる **551億 2,325万円**となった。

歳入

◆市税収入は過去最高額

歳入決算額は、市税、市債、国庫支出金などの増により、前年度対比 106.3%の 1,677 億 931 万円となった。また、歳入の 46%を占める市税の決算額は、前年度対比 108.7%、61 億 5,049 万円の増となる 770 億 9,031 万円と過去最高額となった。



※グラフ中の数値は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります（以降のグラフも同様です。）。

◆基本施策の確実な実施に加え、社会環境の変化にも的確に対応

令和7年度は、こどもと子育て家庭を支援する環境づくりを充実させるとともに、少子高齢化を始めとする社会課題に対応する基本施策を確実に実施するほか、ゼロカーボンシティの実現やDXの推進といった社会環境の変化への対応にも取り組んだ。この結果、歳出決算額は、前年度対比 106.2%の1,577 億 6,829 万円となった。

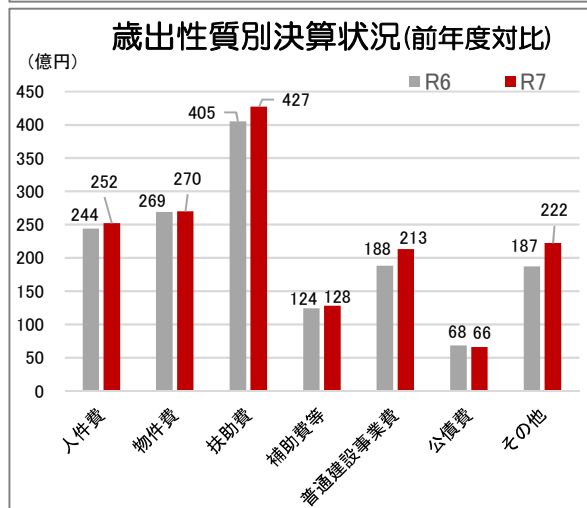
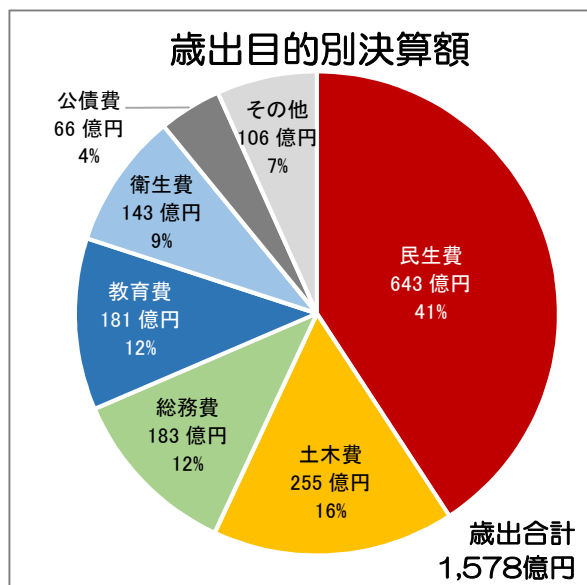
目的別の決算額は、福祉分野の支出となる民生費が全体の 40.7%を占める 642 億 6,858 万円と最も大きく、次いで土木費、総務費、教育費、衛生費の順となっている。

◆普通建設事業費や扶助費が増加

性質別の決算額は、普通建設事業費は、岡崎中央総合公園、美術博物館、シビックセンターの整備のほか、中学校屋内運動場における空調の整備などの増により、前年度対比 113.4%の 213 億 1,393 万円となった。

扶助費は、児童手当、物価高対応子育て応援手当、障がい福祉サービス費などの増により、前年度対比 105.5%の 427 億 4,030 万円となった。

人件費は、職員の退職手当が減となったものの、報酬や給料、共済費などの増により、前年度対比 103.5%の 252 億 1,253 万円となった。



<主な事業>

- ・スマートインターチェンジ整備業務：7 億 9,131 万円
- ・東岡崎駅周辺地区整備推進業務：14 億 9,267 万円
- ・本宿駅周辺地域拠点関連道路整備業務：6 億 8,027 万円
- ・南公園整備業務：11 億 7,599 万円
- ・岡崎中央総合公園整備業務：25 億 1,474 万円
- ・大樹寺荘整備業務：7 億 9,705 万円
- ・地域脱炭素移行推進業務：5 億 1,485 万円
- ・予防接種業務：15 億 1,015 万円
- ・福岡南保育園園舎整備業務：6 億 629 万円
- ・シビックセンター施設整備業務：11 億 9,077 万円
- ・美術博物館施設等整備業務：13 億 5,756 万円
- ・情報教育推進業務：6,775 万円
- ・小学校・中学校校舎改修業務：20 億 5,755 万円
- ・中学校屋内運動場改修業務：9 億 1,592 万円
- ・観光イベント推進業務：2 億 3,066 万円
- ・行政手続デジタル化推進業務：1 億 1,126 万円



本宿駅周辺地域拠点関連道路



福岡南保育園

2 特別会計

11 会計の総計では、歳入決算額は 770 億 9,961 万円、歳出決算額は 760 億 5,264 万円で、歳入歳出差引額は 10 億 4,697 万円となった。翌年度へ繰り越した事業の充当財源を控除した純剰余金は 10 億 2,348 万円で、前年度対比 128.3% となった。

3 企業会計

病院事業会計

入院患者数は、平均在院日数が前年度の 10.5 日から 10.0 日へと短縮した一方で新規入院患者数が微増に留まったことにより、前年度と比較して減少した。また、外来患者数も、外来診療日数が前年度より 1 日少なかったことなどにより、前年度と比較して減少した。

収益的収入及び支出の決算状況は、収入は、入院・外来ともに患者 1 日 1 人当たりの診療単価が上昇したことなどにより、前年度と比較して 9 億 5,552 万円の増（103.6%）となる 277 億 1,731 万円、支出は、給与費及び材料費の増加などにより、前年度と比較して 12 億 4,859 万円の増（104.5%）となる 288 億 1,216 万円であった。その結果、税抜きで 11 億 1,170 万円の純損失となった。

水道事業会計

給水戸数は前年度と比較して増加したのに対し、給水人口は前年度と比較して減少した。

収益的収入及び支出の決算状況は、収入は、給水収益及び受取利息の増加などにより、前年度と比較して 1 億 9,237 万円の増（102.4%）となる 82 億 8,888 万円、支出は、総係費及び資産減耗費の減少などにより、前年度と比較して 2,531 万円の減（99.7%）となる 72 億 9,350 万円であった。その結果、税抜きで 7 億 128 万円の純利益となった。

下水道事業会計

下水道への接続戸数は前年度と比較して増加したのに対し、接続人口は前年度と比較して減少した。

収益的収入及び支出の決算状況は、収入は、他会計負担金及び過年度損益修正益の増加などにより、前年度と比較して 4 億 7,376 万円の増（104.7%）となる 105 億 2,161 万円、支出は、ポンプ場費及び資産減耗費の増加などにより、前年度と比較して 3 億 8,129 万円の増（103.9%）となる 102 億 5,786 万円であった。その結果、税抜きで 1,618 万円の純損失となった。